

平成28年 6月 8日
岐阜県立飛騨高山高等学校
国土交通省高山国道事務所

飛騨高山高校の生徒による昆虫類(チョウなど)調査 ～高山西ICビオトープ“飛騨の森再生”～

1. 概 要 : ビオトープ“飛騨の森再生”における環境学習
高山西インターチェンジ内に設けたビオトープ“飛騨の森再生”
において、環境学習を行うことで、自然環境調査に必要な基礎的な
知識と技術の習得および飛騨の自然環境並びに道路建設における自
然環境保全知識の習得について、理解を深めることを主な目的とし
て行います。
2. 日 時 : 平成28年 6月13日(月) 13:30～15:30
(予備日 6月27日(月) 13:30～15:30)
3. 場 所 : 中部縦貫自動車道高山清見道路 高山西インターチェンジ内
ビオトープ“飛騨の森再生”(高山市清見町牧ヶ洞地内)
4. 参 加 者 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科 2年生 5名
国土交通省高山国道事務所 職員
5. 添付資料 : 別紙のとおり
6. 配 布 先 : 高山記者クラブ
7. 問合せ先 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 山田キャンパス
環境科学科 遠藤 貴史(えんどう たかふみ)
TEL 0577-33-1060
FAX 0577-32-8994

国土交通省中部地方整備局 高山国道事務所
計画課長 奥田 清典(おくだ きよのり)
TEL 0577-36-3822
FAX 0577-36-3801



高山西 I C ビオトープ “飛驒の森再生”

1. ビオトープ“飛驒の森再生”整備

中部縦貫自動車道高山清見道路の建設により、動植物の生息・生育環境が分断され、従来の自然環境が大きく変化する可能性があります。そのため、インターチェンジ内を『飛驒の森再生』として位置付け、調整池の自然利用及び周辺植生の遷移促進を含めた計画をし、平成16年11月に高山清見道路（高山清見 I C～高山西 I C）の供用と同時にビオトープが完成しました。

さらに、平成22年7月には、飛驒高山高等学校と高山国道事務所で「維持管理に関する協定」を締結し動植物の生息・生育環境創生に取り組んでおります。



整備直後(H16. 11)



現在の生育状況(H28. 5)

2. 現在のビオトープの状況

完成してからこの12カ年で調整池を含むインターチェンジ内の環境は大きく変化し、ビオトープに移植した根株・貴重植物ともに生育状況は良好です。また、周辺域から在来種も入り、ビオトープ内は調整池や植生の変化に併せて、両生類（カエル）や昆虫類（トンボやバッタ）などの定着も順調に進み、生物の多様化が進んでいます。

維持管理

陸域



草刈り



特定外来生物
(オオハングソウ) の防除

水域



堆積土砂の除去



大型水生植物の間引き

確認された重要種など



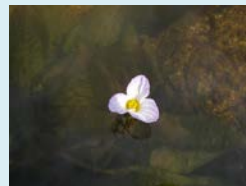
移植した重要種
(キキョウ)



確認された重要種
(マルタンヤンマ)



確認された重要種
(モリアオガエル)



確認された重要種
(ミズオオバコ)

また、同校との協働による継続的な維持管理活動により、貴重な植物が増殖又は再確認されるなど、様々な動植物の生息・生育環境が維持されています。

3. 学習内容

今年度2回目となる今回は、環境科学科2年生5名が参加して、ビオトープ内において初夏に見られる昆虫類（チョウなど）の観察を行います。チョウの仲間は昆虫の中でも生態や生息環境が比較的良好にわかっており、調査の際にも見つけやすく、その場で種名を調べることできる生物です。こうした性質からチョウの仲間は環境を指標する生物として、環境の状況を評価する材料として使われることがあります。

今回の学習では、チョウの採集方法を学ぶとともに、確認できたチョウを用いて現在のビオトープの陸域がチョウにとってどのような環境であるか簡単な評価を行います。



昆虫類の採集（H27. 6状況）



昆虫類の採集（H27. 6状況）



採集した昆虫類の確認（H27. 6状況）



ヒメシジミ（H27. 6撮影）